ねずみの家は はっぱ色

堀内純子　絵 瀬戸好子

913

堀内純子

ねずみの家は はっぱ色

講談社　1979

160p　22cm（児童文学創作シリーズ）

ほりうち　すみこ

ねずみの家は はっぱ色

昭和54年7月20日　第1刷発行

定価850円

著　者　堀内純子

発行者　野間省一

発行所　株式会社　講談社

東京都文京区音羽2-12-21 郵便番号112

電話　東京03(945)1111(大代表)

振替　東京8-3930

印刷所　廣済堂印刷株式会社

双美印刷株式会社

製本所　株式会社　堅省堂

© 堀内純子　1979　Printed in Japan

落丁本・乱丁本はおとりかえいたします。

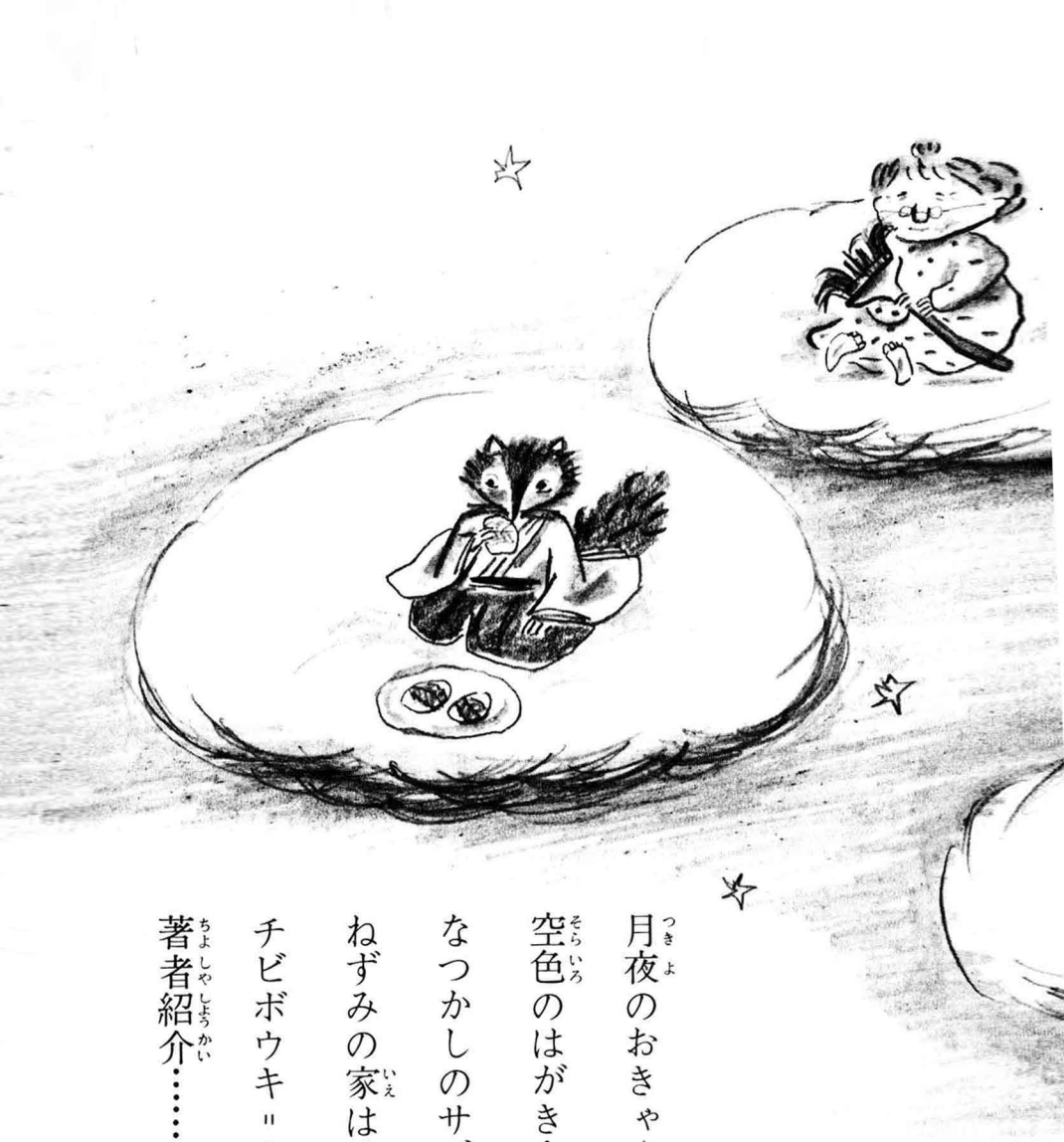
8093-189905-2253（0）　（児一）

短編集

ねずみの家(いえ)は はっぱ色(いろ)

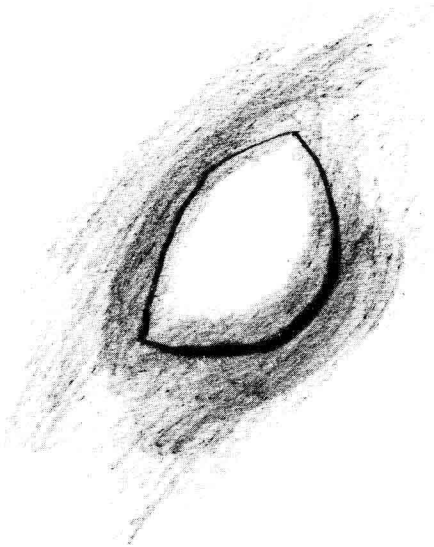
もくじ

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com



月夜のおきゃくさま……7
空色のはがき……21
なつかしのサバンナ……43
ねずみの家ははっぱ色……67
チビボウキ＝カイゼル……87
著者紹介……156

月夜（つきよ）のおきゃくさま



のんちゃんは、まくらに足なんかのっけて、ねています。左手のつめをかみながら、右手は、かみの毛をくしゃくしゃにまるめています。おまけに、なみだがぽろん、くしゅん……。もうじき、一年生になるっていうのにね。

「けちい。タッちゃんのけちい、ミイちゃんのけちい、ユッコのけちいっ。」

まくらの上で、足がばたばたあばれます。

だって……。

きょうはひなまつり。おひなさまはきれいにかざったし、さくらもちも、ちらしずしもできました。なのに、のんちゃん、水ぼうそうになっちゃったんです。

顔にもせなかにも、いっぱいぼつぼつがでてきて、むずむずするし、だあれもあそびにきてくれないし。つまんないよう。

「みんなきてくれるわよ。のんちゃんの水ぼうそうが、なおったら。」

ママがやさしくいいました。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

「それまで、おひなさまかざっておいて、みんなでひなまつりパーティーしましょうね。」
のんちゃんは、くるりとおきあがります。
「だって、さくらもちは？　おすしは？」
「もう一ど、作ってあげるわ。」
「たまごいれて？　えびもいれて？」
「ええ、ええ、もちろん。」
「やきりんごと、プリンも？」
「いちごのケーキも作ってあげようかな。」
「わあーい。」
のんちゃんは、ひっくりかえってばんざいをしました。そのとき、
「わあい。」

べつのちっちゃい声が、いったんです。
「あら？　なんか、きこえなかった？」
「うん、まどの外みたい。」
ママとのんちゃんは、まどをあけました。
あたたかな、春の夕ぐれです。
うらの山は、むらさき色にぼやけて、もうねむっています。うめの花のやさしいにおいが、ながれてきました。

そのばんのことです。
のんちゃんは、目がさめました。せなかもおなかもむずむず、気もちわるいよう。
パパとママは、まだむこうのへやでおきているようです。

「つまんないなあ。おひなさまでも見ようっと。」
のんちゃんは、スタンドをつけました。ほおづえついて、ひなだんを見あげました。おひなさまたちは、とてもぎょうぎよく、きちんとならんでいます。だけど……。
「あれえ、なんだかおかしいぞ。」
のんちゃんは、そう思ったんです。
のんちゃんは、おきあがってよっく見ました。あ、わかった、わかったぞ。官女さまが四人もいるんです。
「へんねえ、さっきまで三人だったのに。」
よくよく見ると、ひとりの官女さまは、目をつぶっています。
「へんねえ、さっきまで、みんな目をあけてたのに。」
さわってみたけど、どうということもありません。とってもじょうひんに、

とってもしせい正しく、官女さまはすわっています。

のんちゃんは、目をつぶっているおひなさまを手にとって、つくづくとながめました。ゆびでおしてみました。はあっと、いきをふきかけてみました。すると、

「ウハッ、ファッ。」

官女さまがわらったのです。それからいそいで、おすまし顔にもどりました。

「へんだ、おかしい。どしたんだ

ろ。」

のんちゃんは、官女さまを、ひざの上でくるくるなでまわしました。すると、

「く、す、ぐっ、たい。たすけてくれ。もうがまんできない。」

官女さまは、のんちゃんのひざの上で、大わらいをはじめたのです。

「へんなおひなさま。どしてわらうの？」

のんちゃんは、びっくりしてききました。

「どしてって、のんちゃんたら、くすぐるんだもん。」

官女さまは、ぱっちりと、たいそうまるい目をあけました。

「あら？　目があくのね。」

のんちゃんは、びっくりして、手をひっこめます。

「あるにきまってるだろ。きゅうに電燈なんかつけるんだもん。まぶしくてつぶったのさ。のんちゃんだってそうするだろ？」

官女さまは、いばっていいました。

「あ、そうか。」

それにしても、ずいぶんらんぼうなことばづかいの官女さま。

ぽよようん……。

官女さまが、ふっくりふくらみました。ひげが、ぴんぴんとはえました。しっぽがふっさりはえてきました。

あれ？

のんちゃんが、目をこすると、ひざの上には、かわいい子だぬきが一ぴき、のっていたのです。

たぬきの子は、のんちゃんのひざからするりとおりると、

「こんにちは。ぼく、タヌーです。」

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com